

コンピューターの時代という現実へ

黒田インターナショナル

黒田 毅

時代先端性は新しいコンピュータの活用における効率性への転換である。日本人の特性は、その環境を整備することでこれらの需要を与えることができると考える。

これはアナログと手工業から、コンピューター管理への転換が、国内における IT 産業の育成を、OS、アプリケーション作成、CPU、LSI、ディスプレイなど、既存の大手企業の参加において、これらを現実化することは可能なのである。

これらは産業基準が、手工業とアナログでなく、コンピューターエイジという新しい時代への転換を必要とするからであり、インダストリー4.0やソサエティ5.0などは、これらの延長である。

またネクストソサエティは現実であり、これら社会転換は、唯一コンピューターにおける高い効率性を社会と生活において受容することである。

これらは既存国内産業がこれら基準における新たな自己参加を得ることは、行政と産業の緊密な連携を政治の合意と決定において行い、新しい社会構築を実現できる。